

# 矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.3



発行日：平成 25 年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第4回山の地域部会・第11回山部会WGを開催しました！

8月17日（土曜日）に第4回山の地域部会・第11回山部会WGが開催されました。

今回のWGでは、山部会で取り組んでいる4つのことのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づくりガイドラインの2つについて話し合いました。

日時：平成 25 年 8 月 17 日（土）9:00～13:00

場所：豊田市役所 足助支所 2階 第2会議室

参加者：15名（事務局含む）



## ◆主な会議内容

### 1. 第4回山の地域部会にて、役員の変更を行いました。



第4回山の地域部会にて、矢作川流域圏懇談会規約に基づき、役員の変更を行いました。

座長に東京大学大学院の蔵治光一郎准教授、副座長に岐阜県立森林文化アカデミーの丹羽健司非常勤講師が改選されました。



### 2. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成に向け、山村の担い手のいる現場に行って、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査を行います。

今回は、取材調査の募集方法や具体的なスケジュールについて話し合いました。10月の取材調査開始に向けて、着々と準備が進んでいます。



### 3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



今回は「木づかいガイドラインはじめの一歩」として、参加者の方々が「森や木を前にして、これではいけないのでは、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と思う点について意見を出し合いました。

身近にある木の暮らしをイメージしながら、流域の木材利用や木工製品の活用方法について、多くの意見が出されました。



## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の作成にあたり、取材調査の実施にあたっての具体的なスケジュールと取材先への協力依頼文、取材者募集のメール文面の案について話し合いました。会議の中で出た意見を反映し、10月の調査に向けて準備を進めます。

#### 出た意見

- 取材者募集の文面には、取材先の選定は「自発的で優れた活動団体」を対象としていることを付け加える。(蔵治)
- 取材の申し込み後、参加者の希望に沿うように取材先とのマッチングを行うが、必ずしも希望通りにならないことを記載しておく。(丹羽)

### 2013年度スケジュール案

今年度のスケジュールを以下のように予定しています。

|                      |  |
|----------------------|--|
| ・8月17日(日)            | 山部会WGでの作業                              |
| ・～8月25日(日)           | 取材先の連絡先・連絡方法確認                         |
| ・～9月6日(金)            | 取材先への連絡と取材の可否確認                        |
| ・9月7日(土)～9月27日(金)    | 取材者の募集                                 |
| ・10月1日(火)～10月14日(火)  | 取材先と取材者のマッチング、<br>取材者への連絡(取材方法と取材先の通知) |
| ・10月15日(水)～12月28日(土) | アポイントメント、聞き取り、レポート提出                   |
| ・1月6日(月)～2月28日(金)    | 2013年度山村再生担い手づくり事例集作成、交通費精算            |



### 参加者の募集について

- 山川海の連携が大切。山部会のメンバー以外にも川と海からの参加があるとよい。(丹羽)
  - ▶メールによる呼びかけに加え、川部会、海部会が開催する会に説明へいき案内することがよい。(蔵治)
  - ▶8月26日の川部会と9月9日の海部会に出向き、周知してくる。(丹羽)
  - ▶8月21日の市民会議に出向き、周知してくる。(洲崎)

### ●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの作成のはじめの一歩として、「森や木を前にして、これではいけないので、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と感じることにについて、ブレーストーミング方式で意見を出し合いました。主な意見は以下です。

#### 【木づかいガイドラインについて】

- ▶職業柄、木づかいガイドラインの作成は形式から考えてしまうので、今回のやり方は、消費者目線・利用者目線で考えられるためよい。(原田)
- ▶矢作川流域に住んでいることの意味は、流域市民の暮らしの質が上がる、価値が上がるということにつながる。(相川)
- ▶ガイドラインはみんながわかるものがないとだめ。書店でマイサイズが入ったキットを売るなども面白い。(城田)
- ▶立っている木に親しめる機会があるとよい。森を明るく。歩いて楽しい林にできればよい。(洲崎)
- ▶木づかいガイドラインと森づくりガイドラインはリンクしていないといけない。(黒田)
- ▶工務店とのブレーストーミングを通じて意見交換などができるとおもしろい。(蔵治)

#### 【木材利用の推進について】

- ▶旭の交流館から依頼があり、木や森に関することを子供たちに伝えるイベントをした。子供は将来性があるので、木の良さをわかってもらえるとよい。木材でつくられた小学校などを通じてPRしたいが、森林組合だけで行うのは困難。(松井)
- ▶人間のライフサイクルを考えると、どの時代も同時期に同じものを購入しており、木材も今後、チャンスがある。(相川)
- ▶総無垢のベビーベッドがある。世の中にはファーストウッドという考えもある。(蔵治)
- ▶ファーストウッドで地域振興している上飯田の例がある。(原田)
- ▶机、ランドセルなど成長に応じて木を用いた製品を使ってもらう手もある。(丹羽)
- ▶北海道のエコビレッジでは、自分達で使うものを自分たちで作る。生活の中にあるものは意外と自前でできる。(城田)
- ▶普通の人々が作れるものを品目に入れるべきだし、そのようなものの中には雇用を生み出すのはたくさんある。(城田)
- ▶木の駅プロジェクトに関連し、ちょっとした木工が可能となる機器をおいておけばよい。(南木)
- ▶日曜大工は道具をそろえればその気になればできる。(丹羽)
- ▶リフォームへの補助金(城田)
- ▶豊田森林組合では、工具そのものを貸し出すことはしないが、組合で実施する体験学習に参加した方には、使ってもらっている。講座が終わった人がまた使いたいといってくることもある。(松井)

## 今後のスケジュール(予定)

次回のWGを9月13日(土)に元気村にて開催します。

